



みてみて保育実施報告

認定こども園おっこう山

みてみて保育とは、日常の保育活動を法人内でお互い見学し、その後、意見交換を行う事により、保育の質の向上や専門性向上を目指す研修方法です。

令和7年8月6日(水) 9:30~15:00

ねらい

- ・現場の困り感を吸い上げ、教育保育の現状を把握し、今後の取り組みの視点を検討
- ・様々な視点から見る、保育内容の充実や環境整備の在り方を見つめる
- ・幼老共生の充実を目指す(和みタイムの内容充実とリスク管理)

活動内容

- ・登園時の様子や合同活動の様子を観察する
- ・各クラスの指導案に記載の「現在困っていること」に着目し、保育内容を観察しながら今後の取り組みの視点を検討する
- ・幼老共生の取り組みの様子を観察する

参加者からの評価

- ・発達に応じた玩具や環境構成が整い、子どもが主体的に活動できる保育が行われていた。
- ・安全面や生活面への配慮が行き届き、職員の温かい関わりのもと、子どもに合った無理のないプログラムが実践されていた。
- ・栽培活動や地域(グループホーム)との交流を通し、子どもと地域双方に良い影響が見られる取り組みであった。

今後に向けて

- ・保育環境の整備について、職員全体で意識を共有し、安心・安全な生活環境の維持と意識の継続、向上に努める。
- ・事前準備や片付け等、日常の保育の基本を徹底し、職員同士が声を掛け合い、補い合う事により、チーム力の向上を図る。
- ・子どもを真ん中に置いた保育を軸に置き、ねらいを明確にした計画立案や振り返りを行い、PDCAサイクルによる実践の質の向上と幼老共生の取り組みを法人内外に発信していく。